

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

訪れてみたいふる里づくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

埼玉県、埼玉県秩父郡小鹿野町

3 地域再生計画の区域

埼玉県秩父郡小鹿野町の全域

4 地域再生計画の目標

本町は、埼玉県の西北部、秩父山地のほぼ中央に位置し、東京都心から80km圏域に位置し、日本百名山の両神山を中心とした秩父多摩甲斐国立公園をはじめ、丸神の滝や四季折々の花々、新緑、紅葉など豊かな自然と地域に伝承される数々の祭り、秩父札所など歴史と文化に恵まれた地域である。交通は、国道299号が町の東西に走り、これに接続する県道や主要な町道が幹線道路網を形成しているが、鉄道がないため、路線バスや自家用車が主な交通機関で、山間部には道路網の整備と交通機関の改善が望まれる地域が残されている。

森林が町の全面積の83%を占め、かつては、木材生産が町の重要な産業であったが、近年の木材需要の減退と輸入材の増加等による材価の低迷から林業生産は停滞し、林業労働者数の減少により、除間伐や下刈りなどの管理が適正に行われていない森林が増加している。

このような状況の中で、本地域は都市近郊にあるという地理的なメリットを生かし、豊かな自然環境の中に整備された「尾ノ内自然ふれあい館」等既存の観光施設等の地域資源を利用しながら、地域内に平成20年に開園したダリア園等の新たな観光スポットへ観光客を呼び込み、交流人口を増加させることによって、地域における人とももの流れを活性化させ、活力の再生を目指す取組を進めてきた。併せて、豊かな自然を維持し、山村としての魅力を保つため、整備が進む林道の利用により間伐等の森林景観の保全に努めてきた。これまでの、区域を横断する国道299号及び県道を補完する町道や林道の整備の進展により区域内の観光スポットと都市部へのアクセス道が結ばれつつある。今後は、市街地域・山間地域・観光地域のネットワーク化を図り、更に、都市部からの観光客と地域住民の利便性を高めるとともに、災害時の山間集落の孤立化を防止する。また、森林へのアクセス向上による林業の効率化等により、町内において実施する間伐実施面積を拡大する。

これらの方策により「訪れてみたいふる里」の実現を目指す。

(目標1) 林業の振興と地域環境の改善(間伐面積)

平成17～21年度	実績見込み	850ha（1年度当たり170ha）
平成22～26年度	目標	900ha（1年度当たり180ha）
	増加面積	50ha（5%増加）

（目標2）観光資源の有効活用（観光入込者数）

平成20年	実績	154万人
平成26年	目標	162万人
	増加人数	8万人（5%増加）

5 目標を達成するために行う事業

（5-1）全体の概要

都市近郊に位置していながら、豊かな自然に触れることができる本地域の特性を活かしながら、町内全域に散在する観光スポット間及び都市部へのアクセスと農林業体験や市民農園の利用者の利便性を向上させるため、町道・林道など交通網の整備を促進する。また、交通網の整備による病院までの到着時間の短縮や避難路の確保、林道整備と併わせて進める間伐事業の推進により森林景観の保全など住民生活の安全性・快適性の確保を図る。これらの事業により「訪れてみたいふる里」の実現を期待する。

（5-2）法第5章の特別の措置を適用して行う事業

①道整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を完了している。

なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・町道：道路法に規定する町道に認定済み。
 - 町道189号線：平成10年12月10日
 - 町道226号線：昭和62年3月12日
- ・林道：埼玉地域森林計画（平成19年12月樹立・平成21年3月変更）に路線を記載。
 - 御岳山2号線
 - 八日見線
 - 金山志賀坂線
 - 茅ノ坂線
 - 西秩父線
 - 皆本沼里線
 - 浦島線
 - 日蔭入線
 - 日蔭入支線

【施設の種類（事業区域）、実施主体】

- ・町道（小鹿野町） 小鹿野町
- ・林道（小鹿野町） 埼玉県、小鹿野町

「事業期間」

- ・町道（平成22年度から25年度）、林道（平成22年度から26年度）

「整備量及び事業費」

- ・整備量
 - 町道 0.4 km
 - 林道 9.6 km
- ・総事業費 823,000千円（うち交付金 397,166千円）
 - 町道 60,000千円（うち交付金 30,000千円）
 - 林道 763,000千円（うち交付金 367,166千円）

（5—3）その他の事業

（1）既存施設の拡充（実施主体：小鹿野町）

日本百名山のひとつ「両神山」を源流とする尾ノ内溪谷に整備された「尾ノ内自然ふれあい館」に町による周辺整備を行い、地元住民の団体等によるイベントの拡充で観光客の増加を図る。

両神日蔭地域の「両神山麓花の郷」のダリア園は、9月～10月の開花期には、例年約17,000人の入園者があり、今後は、地元住民の団体と町との協働により花の種類の実験などを図る。

両神山・四阿屋山を中心とした地域に咲く四季折々の花等を活かしたイベントを、地元住民の団体等の参加を得ながら町の事業として実施し、日帰り入浴施設「両神温泉薬師の湯」や「バイクの森おがの」、地元の農林産物を活用した直売所、地元の材料を利用して、そばうち・豆腐づくりなどの体験ができる地域資源活用センター等で観光客が増加するよう計画していく。

（2）イベントの開催（実施主体：小鹿野町）

年間を通してイベントを開催し、PRを積極的に行い、観光入り込み客が増加するように創意工夫をする。

- 2月 福寿草まつり
- 3月 節分草まつり、溪流釣りの解禁
- 4月 桜をはじめ自然の花が咲き乱れ、下旬には両神山の八汐ツツジが咲き始める。
- 5月 両神山の八汐ツツジと新緑まつり
- 6月 花ショウブまつり
- 7・8月 川遊び、ハイキング
- 9月 ダリア園まつり

- 10月 下旬から両神山をはじめとする紅葉まつり
- 11月 ふるさとまつり
- 12月 飯田の鉄砲まつり

このほか各地域の祭りや各施設の感謝祭等多彩な催しを開催する。

(3) PRの実施 (実施主体：小鹿野町)

各施設の紹介やイベント等のパンフレット作成を行い、ホームページに掲載して広く宣伝する。

(4) 間伐の推進と森林の機能・景観の保全 (実施主体：小鹿野町)

間伐を推進して、森林の機能と景観の保全を図る。

(5) 公共交通機関の再構築の検討 (実施主体：小鹿野町)

山間部の移動手段として重要な町営バス等の路線バスを含む公共交通機関について、現行バス路線の見直しやデマンド交通の導入などを含む交通機関の再構築の検討を実施する。

6 計画期間

平成22年度～平成26年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に、役場の関係部署において必要な調査を行い、状況を把握するとともに、モニタリングを行い、達成状況の評価、改善すべき事項の検討等を行った上で、町ホームページ等に公表する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし

- 添付資料1 地域再生計画の区域
- 添付資料2 地域再生計画の工程表
- 添付資料3 道整備交付金による整備箇所図
- 添付資料4 概要図 (ポンチ絵)